2008年3月期 中間決算説明会

2007年11月20日

宝ホールディングス株式会社

本日の構成

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

1. 宝ホールディングス連結
   - 2008年3月期 中間決算レビュー
2. 宝酒造グループ（宝酒造連結）
   - 2008年3月期 中間決算レビュー
   - 2008年3月期 通期業績予想
3. 宝ヘルスケア概況
4. 宝ホールディングス連結
   - 2008年3月期 通期業績予想

1. 宝ホールディングス連結

- 2008年3月期 中間決算レビュー

再掲 本年度(08年度3月期)の方向性【期初計画】

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

07年3月期は3期ぶりの営業増益を達成。08年3月期も増益を継続し“収益力の回復”を確実にする。また第6次中期経営計画の最終年度として、中計立案当初の利益計画(*)には届かないが、各事業で来年度以降につながる施策を確実に進めていく。(*)経常利益100億円以上

【各事業の方向性】

酒類・調味料事業 ～ 収益力の向上 ～

国内酒類: 前期構築した利益マネジメントを継続した上で、収益力向上の施策を実施し、今後の収益基盤をより強固なものにする。

その他: 成長戦略を1つ1つ現実にする。

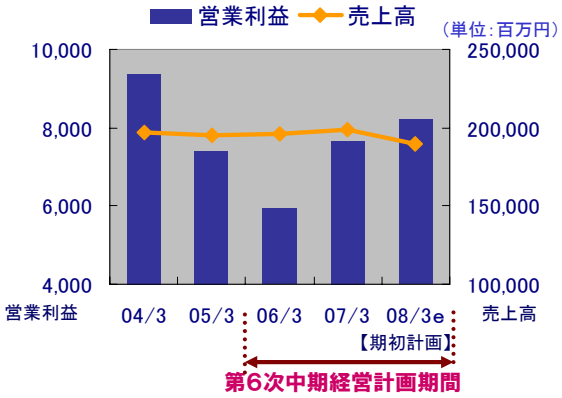
バイオ事業 ～ 遺伝子医療の推進 ～

前期に続き、遺伝子工学研究分野と医食品バイオ分野における収益力を高めながら、遺伝子治療、細胞医療の早期商業化を目指す。

機能性食品事業 ～ 成長事業に育成 ～

将来の成長基盤となるよう立ち上げた事業の芽を、確実に育成する。

【営業利益・売上高推移(期初計画)】



2期連続の増益
営業利益82億円、
経常利益80億円の達成へ

酒類事業の政策「納入価格の見直し提案」の関係上、上期は減益、下期にとりかえし、通期で増益を目指す

08年3月期 中間報告

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

【今後につながる施策の実施】

✓ 酒類・調味料事業

- 納入価格の見直し提案に着手
  （甲類焼酎の大型容器商品・スタンダードチューハイ）
- 漸減傾向であった宝焼酎「純」をリニューアル

収益構造の改善に向け
着実に歩みを進める

✓ バイオ事業

- HSV-TK遺伝子治療の臨床開発が進展
  （白血病を対象としたHSV-TK遺伝子治療の臨床試験に関して、遺伝子治療用医薬品の指針への適合性を厚生労働省が確認。）
- 細胞医療事業の拡大
  （「レトロネクチン®拡大培養法」を基盤とした細胞医療の臨床開発の推進。三重大学のがん免疫再建療法は、臨床研究の開始に向け前進。）

遺伝子医療
分野の商業化に
向け前進

【中間決算に関して】

◆酒類・調味料事業
- 国内酒類事業の利益マネジメントの継続
- 飲料事業の撤退

◆バイオ事業
- クロンテック社の買収
- 医食品バイオ分野の販売機能の移管

これまでの施策が
収益に反映

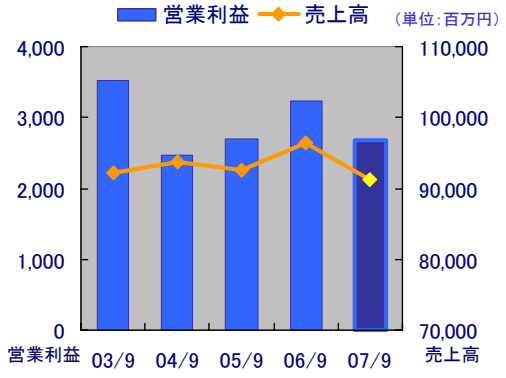
宝HLD連結_P/L概要（08年3月期中間決算）

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖損益計算書

（単位：百万円）	07/09 実績	前年比 増減	前年比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	91,195	△5,137	△ 5.3	2,195	2.5
宝酒造G	79,257	△5,765	△ 6.8	2,957	3.9
タカラバイオG	9,403	△ 404	△ 4.1	△ 466	△ 4.7
その他	2,534	1,033	68.8	△ 295	△ 10.4
売上原価	56,441	△ 2,949	△ 5.0	1,441	2.6
売上総利益	34,753	△ 2,187	△ 5.9	753	2.2
販管費	32,069	△ 1,633	△ 4.8	△ 230	△ 0.7
営業利益	2,684	△ 554	△ 17.1	984	57.9
宝酒造G	2,132	△ 1,135	△ 34.7	532	33.3
タカラバイオG	232	943	―	502	―
その他	319	△ 362	△ 53.1	△ 50	△ 13.7
営業外収益	671	162	31.9	171	34.4
営業外費用	575	76	15.3	175	44.0
経常利益	2,780	△ 468	△ 14.4	980	54.5
特別利益	863	421	95.5	763	763.6
特別損失	1,432	867	153.2	1,332	1,332.9
中間純利益	1,249	△ 449	△ 26.5	549	78.5

【営業利益・売上高推移】



【営業外・特別損益】（単位：百万円）

- 受取利息122、受取配当金281、持分法による投資利益22、為替差益29、受託研究補助金11　等
- 支払利息132、社債利息119、棚卸資産廃棄・欠減損91、社債発行費76　等
- 投資有価証券売却益583、持分変動利益184、営業権等譲渡益50、固定資産売却益38　等
- 係争和解費用1,195、固定資産売却・除却損65、投資有価証券評価損34　等

グループ別損益概要（08年3月期中間決算）

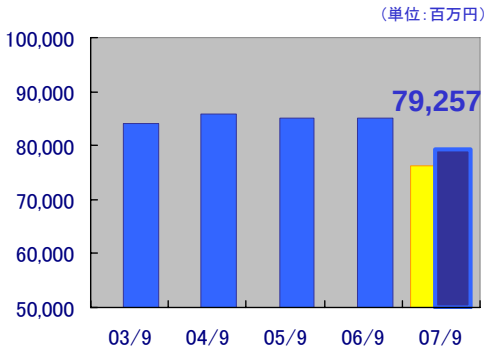
宝HLD
宝酒造　宝ヘルスケア　タカラバイオ

❖売上高・営業利益推移

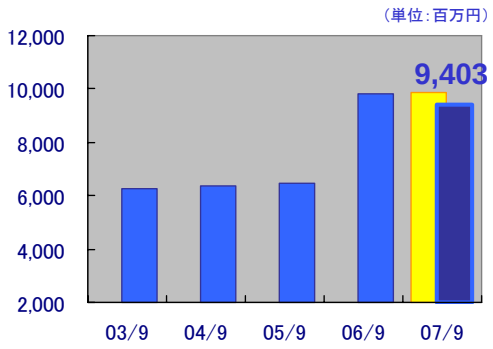
期初計画
実績

【宝酒造グループ】

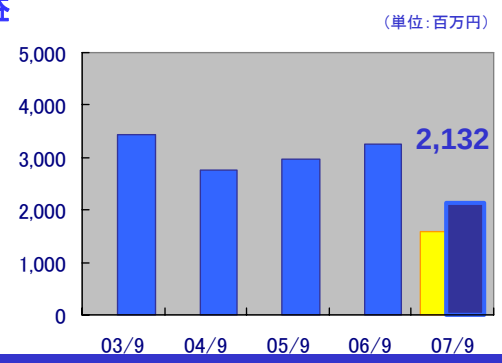
◆売上高

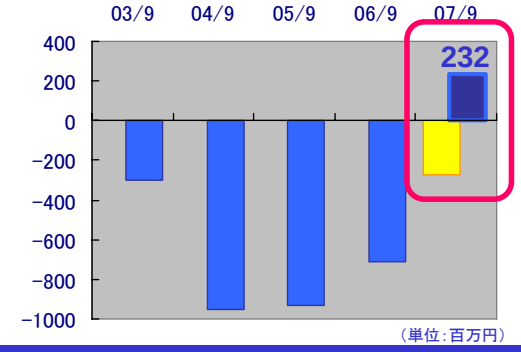


【タカラバイオグループ】



◆営業利益





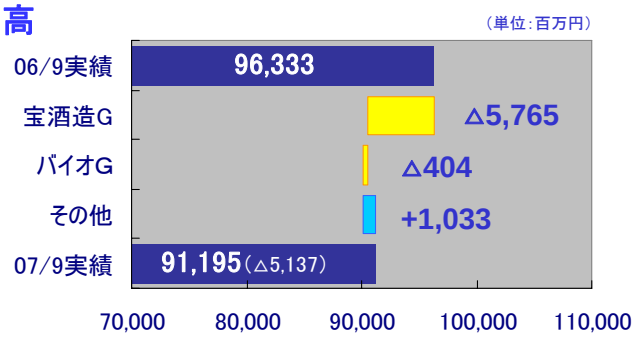
グループ別損益概要（08年3月期中間決算）

宝HLD
宝酒造　宝ヘルスケア　タカラバイオ

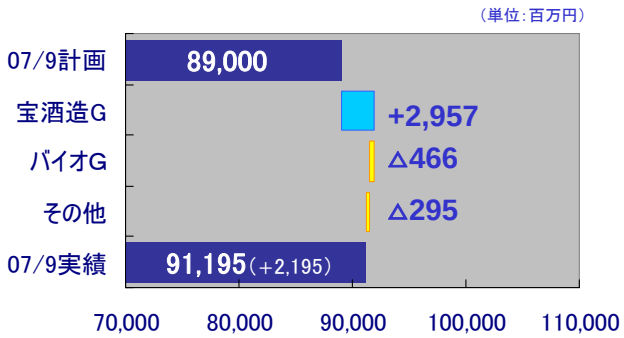
❖売上高・営業利益増減分析

【前年比】

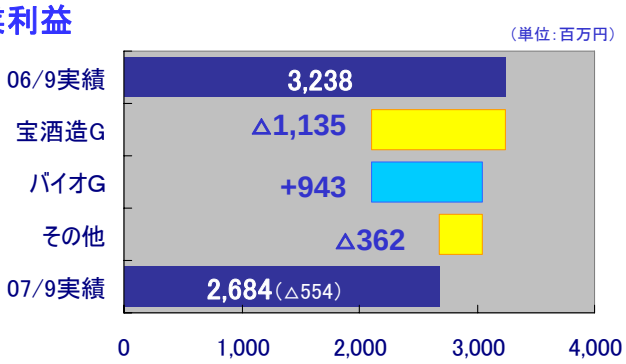
◆売上高

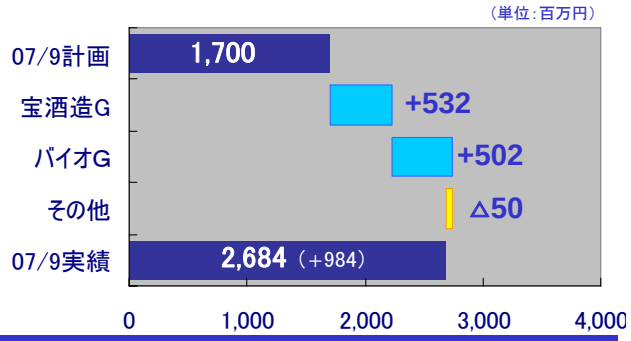


【期初計画比】



◆営業利益





宝HLD連結_B/S概要：資産（08年3月期中間決算）

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖資産

（単位：億円）	06/09	07/09	増減
流動資産	1,113	1,188	74
現金及び預金	196	227	30
受取手形・売掛金	557	496	△61
有価証券	62	154	92
棚卸資産	252	262	9
その他	43	46	3
固定資産	1,006	971	△34
有形固定資産	509	489	△20
無形固定資産	62	68	6
投資その他資産	434	413	△21
投資有価証券	357	340	△16
その他	77	72	△4
資産合計	2,119	2,159	39

- 流動資産 増減 74 → TH ＋80.0、TS △43.2、TB ＋28.9、他
- 現金及び預金 → TH ＋12.1、TS +6.2、TB +10.0、他
- 受取手形・売掛金 → TS △56.8、TB △ 6.6他（売上高減少による）
- 有価証券 → TH ＋70.0、TB ＋20.7他（譲渡性預金等短期資金運用）
- 棚卸資産 → TS ＋9.6 他
- 固定資産 増減 △34 → 当中間期の有形固定資産の増減
  - 新規取得 ＋17.2（TS ＋9.1、TB ＋7.2、他）
  - 減価償却 △23.7（TS △16.9、TB △6.3、他）
  - その他増減 ＋0.6（TS ＋0.3、TB ＋0.3）
- 投資その他資産 増減 △21 → TH △15.3、TS ＋2.3、TB △ 8.8、他

（TH:宝HLD、TS:宝酒造グループ、TB:タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖負債・純資産

（単位：億円）	06/09	07/09	増減
（流動負債）	533	517	△15
支払手形・買掛金	149	148	△1
借入金・社債	98	119	20
その他	284	249	△34
（固定負債）	468	495	26
借入金・社債	206	257	50
その他	261	237	△23
負債合計	1,001	1,012	10
（株主資本合計）	872	876	20
資本金・資本剰余金	164	164	0
利益剰余金	717	739	21
自己株式	△9	△9	△0
（評価・換算差額等合計）	122	120	△1
（少数株主持分）＊	123	133	10
純資産合計	1,118	1,147	29

- （流動負債） 増減 △15 → TH ＋21.7、TS △58.9、TB △1.6、他
- 借入金・社債 → TH ＋20.0
  - 第7回普通社債 50.0（08/05/15償還）固定負債より
  - 第4回普通社債 △50.0 （07/07/27償還）
  - コマーシャルペーパー 20.0
- その他 → 未払酒税 TS △10.7
  - 未払費用 △14.2、その他 TS △9.1 他
- （固定負債） 増減 26
- 借入金・社債 → TH ＋50.0
  - 第8・9回普通社債 100.0（07/09/26）発行
  - 第7回普通社債 △50.0（08/05/15償還）流動負債へ
- その他 → 預り金 TS △7.2 （取引保証金返還）
  - 繰延税金負債 TH △12.2 他
- （評価・換算差額等合計） 増減 △1 → その他有価証券評価差額金 TH △16.6
  - 為替換算調整勘定 TS ＋9.5、TB ＋8.2

（TH:宝HLD、TS:宝酒造グループ、TB:タカラバイオグループ）

＊06/09実績の少数株主持分は07/03実績ベースに組み直して記載している

2. 宝酒造グループ（宝酒造連結）

- 2008年3月期 中間決算レビュー
- 2008年3月期 業績予想

3. 宝ヘルスケア概況

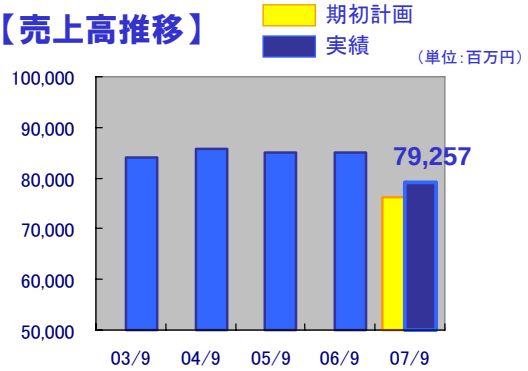
宝酒造グループ_P/L概要（08年3月期中間決算）

宝HLD
宝酒造 | 宝ヘルスケア | タカラバイオ

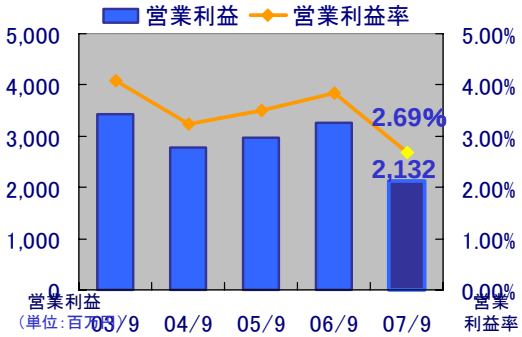
❖損益計算書

（単位：百万円）	07/9 実績	前年比 増減	前年比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	79,257	△5,765	△6.8	2,957	3.9
焼酎	36,710	△3,425	△8.5	1,468	4.2
清酒	8,579	△276	△3.1	△194	△2.2
ソフトアルコール飲料	10,535	191	1.8	1,267	13.7
その他酒類	5,411	559	11.5	290	5.7
本みりん	7,636	△59	△0.8	△119	△1.5
その他調味料	2,660	230	9.5	△33	△1.2
飲料	8	△5,531	△99.8	0	4.1
原料用アルコール等	2,004	△646	△24.4	△213	△9.6
その他	5,711	3,191	126.6	511	9.8
売上原価	50,232	△2,868	△5.4	1,932	4.0
売上総利益	29,025	△2,897	△9.1	1,025	3.7
販管費	26,892	△1,761	△6.1	492	1.9
運送費、保管料	2,879	△693	△19.4	79	2.9
広告宣伝費	2,030	436	27.4	△79	△3.8
販売促進費等	13,788	△1,395	△9.2	588	4.5
研究開発費	169	△17	△9.5	△20	△10.5
商標使用料	695	△97	△12.3	△4	△0.7
管理費、その他	7,328	6	0.1	△71	△1.0
営業利益	2,132	△1,135	△34.7	532	33.3

【売上高推移】



【営業利益・売上高営業利益率推移】

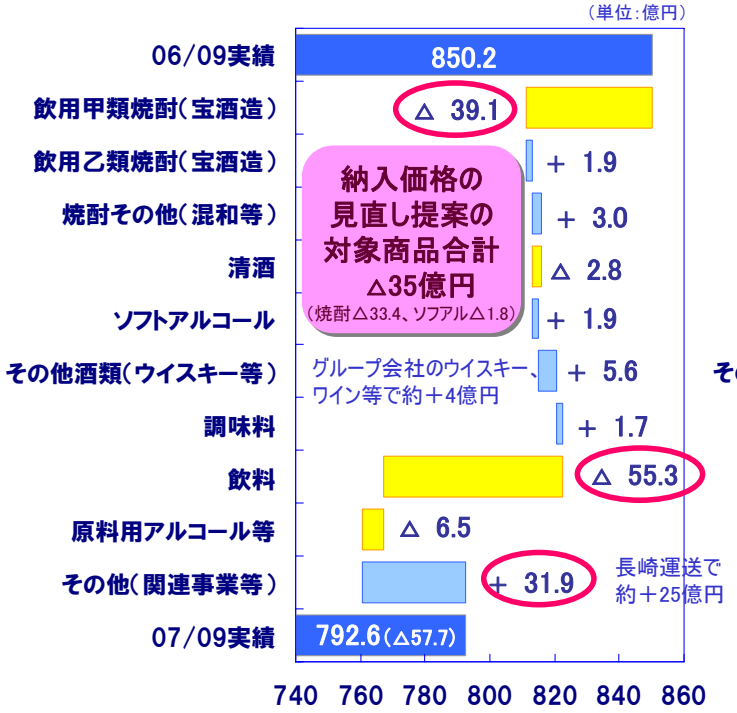


07/09実績	前年差	期初計画差
2．69%	△1.15p	＋0.59p

売上高増減分析（08年3月期中間決算）

宝HLD
宝酒造　宝ヘルスケア　タカラバイオ

❖前年比



❖期初計画比

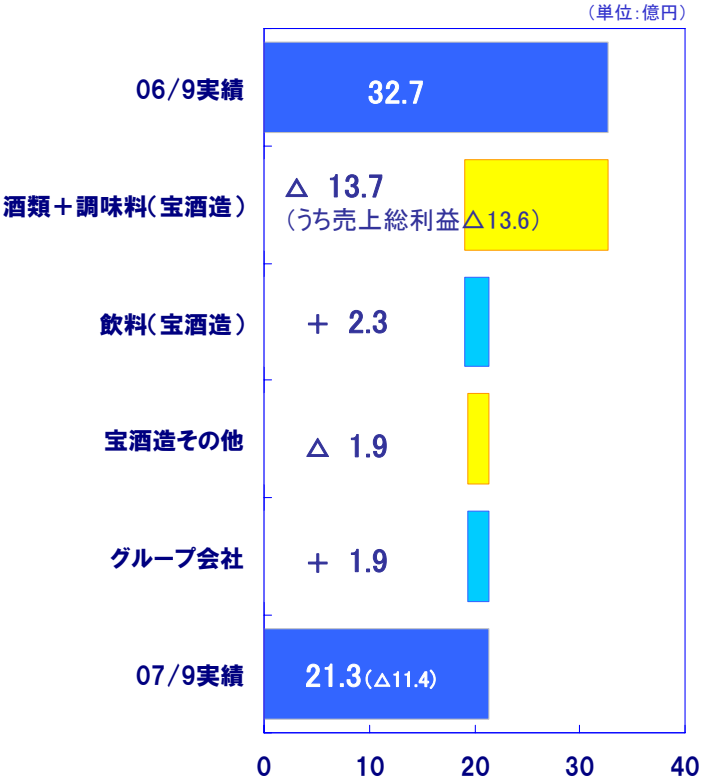
（参考）市場の趨勢 前年比※
・甲類焼酎 △5.0%（弊社上記飲用甲類焼酎 △12.7%）
・乙類焼酎 +3.9%（弊社上記飲用乙類焼酎 ＋3.2%）
・清酒 △3.8%（弊社上記清酒 △3.1%）
・ソフトアルコール △6.9%（弊社上記ソフアル ＋1.8%）

※市場：2007年1～7月 課税移出数量（国内+輸入/速報値）の前年比（国税庁）
/ソフトアルコールは、醸造産業速報の1～9月累計低アルRTD出荷数量の推計値

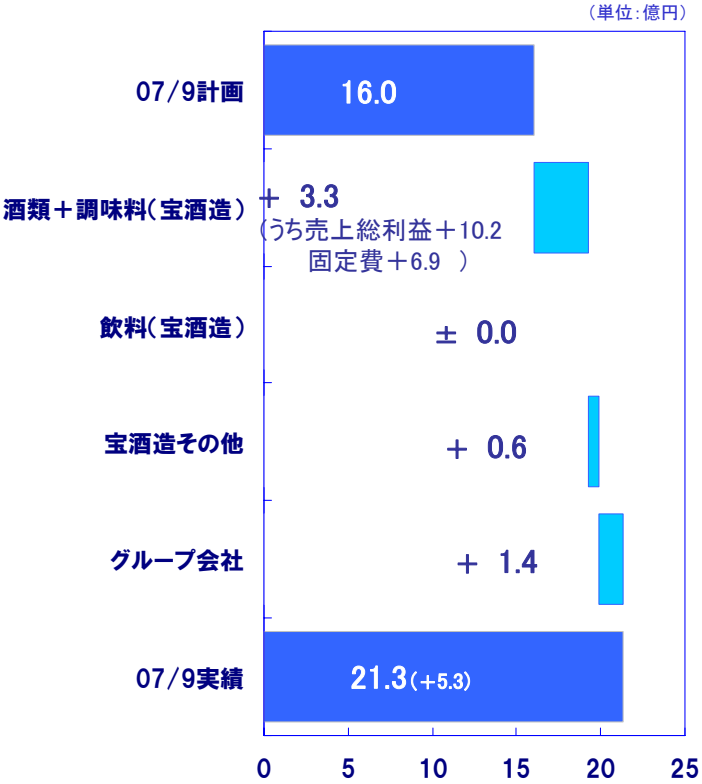
営業利益増減分析（08年3月期中間決算）

宝HLD
宝酒造　宝ヘルスケア　タカラバイオ

❖前年比



❖期初計画比



主要テーマの上期活動内容と下期の方向性

宝HLD
宝酒造 | 宝ヘルスケア | タカラバイオ

テーマ1. 国内酒類事業の収益力の強化

【上期】納入価格の見直し提案に着手した

- 9月末時点で、対象となるほぼ全店での商談は終了
- 期初計画では、4月当初からの見直しを見込んでいたが、一部において商談が遅れ、5～6月のスタートのところも散見
- 期初計画より、販売数量増加、販売促進費増加

売上高販売促進費率	07/9実績	前年差	期初計画差
宝酒造グループ連結	17.4%	△0.46p	0.10p
宝酒造単体	19.7%	0.61p	0.40p

売上高販売促進費率	08/3計画	前年差	期初計画差
宝酒造グループ連結	17.0%	△0.91p	0.33p
宝酒造単体	19.1%	△0.40p	0.45p

【下期】売上高の回復に向け、全力を挙げる

【上期】全量芋焼酎「一刻者」順調に推移

- 全量芋焼酎「一刻者」売上高：前年比＋22%
- “芋100%”訴求広告の徹底。認知率、購入経験率も引き続き向上
- 品質訴求本格焼酎全体の売上高は、前年比＋5%

一刻者サイト http://ikkomon.jp/

【下期】・一刻者のさらなる市場浸透、価値強化を図る
・新たな品質訴求商品の上市を検討

主要テーマの上期活動内容と下期の方向性

宝HLD
宝酒造 | 宝ヘルスケア | タカラバイオ

テーマ1. 国内酒類事業の収益力の強化

【上期】宝焼酎「純」のリニューアルを実施

- 発売30周年を機に、ラベルをリニューアルすることで、宝焼酎「純」ブランドの再活性化を図る
- 減少傾向の歯止めを目標に、継続的な品質訴求活動を実施する
（2010年3月期 前年比100%以上へ）

【下期】各種販売促進活動を通し品質を訴求する

国内酒類事業の方向性

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

～ 第6次中期経営計画（2005年4月～2008年3月）国内酒類事業の方向性 ～

（2005年5月発表）

国内酒類消費量の減少 → 飛躍的な成長は困難 → 事業の中身を変えて収益力を強化

収益力の強化
- ◆ 3つの商品分類による利益管理の実施
- ◆ 販売促進費管理の徹底
（早期の利益把握と、利益視点での戦略の立案）

ABC別限界利益(※)前年比	07/9実績	期初計画差
(A)＋(B)	95.7%	△1.70p
(C)	89.4%	0.54p
合計（国内酒類・調味料）	92.5%	△0.59p

❖3つの商品分類による利益管理の実施

A：品質訴求商品　一刻者、品質訴求本格焼酎、Japan、松竹梅白壁蔵商品　など
今後育成し、宝酒造の利益の柱とする商品

B：ブランド強化商品　純、松竹梅一升瓶、タカラ本みりん CCHレギュラー　など
今まで宝酒造の利益を支えてきた商品であり、今後も利益面で重要な商品

C：一般・量販商品　焼酎甲類大型容器商品、松竹梅「天」、など
規制緩和を勝ちきるために シェアを獲得する商品

【基本方針】
Bの利益の減少をAで補う

CはCで前年利益を越える

【A】開発育成スピードをあげる
- 全量芋焼酎「一刻者」の育成を中心に、品質訴求本格焼酎を育成

【B】減少に歯止めをかける
- CCHレギュラーの活性化
- 松竹梅一升瓶のリニューアル
- 宝焼酎「純」のリニューアル

【C】利益マネジメントを強化する
- 利益マネジメントの徹底
- 納入価格の見直し提案の実施

（※）社内管理会計ベース

3つの商品分類による利益管理の実施

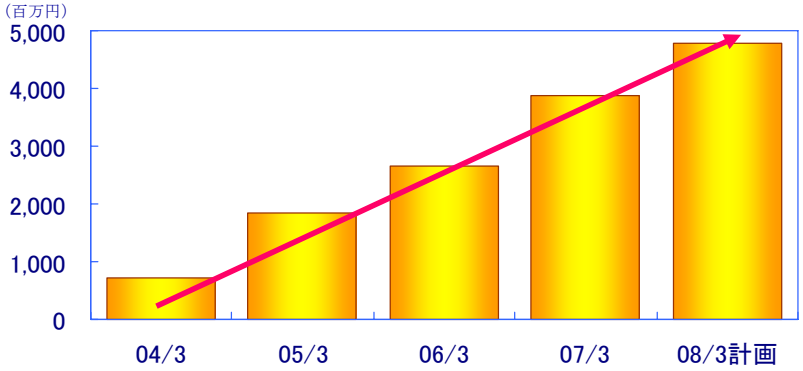
宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖これまでの主な成果

【A】：開発育成スピードをあげる
⇒ 全量芋焼酎「一刻者」の拡大

08/3売上高計画（前年比）
「一刻者」　47.9億円（＋23%）

・一刻者 売上高推移

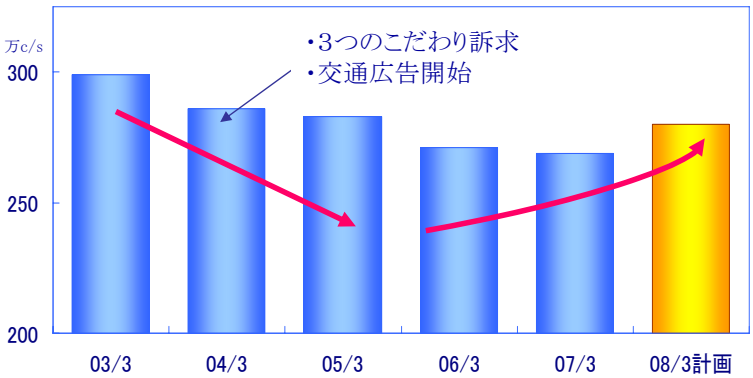


【B】：減少に歯止めをかける
⇒ CCHレギュラーの下げ止まり

08/3販売数量計画
前年比＋4%

⇒ 宝焼酎「純」のリニューアルに着手

・CCHレギュラー販売数量推移



宝焼酎「純」のリニューアル

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖甲類焼酎の表示に関する業界の自主基準の策定（2007年10月より運用開始　詳細を巻末に記載）

	（従来）		（現在）「純」の場合
原材料の表示	表示なし	➡	サトウキビ糖蜜、大麦、トウモロコシ

・“もろみの原材料”を使用割合の多い順に表示する
・蒸留後に加えた砂糖、添加物（着色料、酸味料など）も表示

貯蔵に関する表示（貯蔵容器・貯蔵年数）	明確なルールなし（明確なルールがなく、“樽貯蔵”という表示は禁止されていた）	➡	“厳選樽貯蔵熟成酒13%使用”

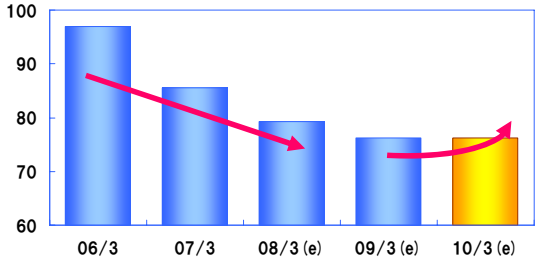
・「貯蔵」やそれと同様な表示をするためには、「貯蔵した容器の名称」と「その使用比率」を併記
・1年以上貯蔵したものは貯蔵年数を表示でき、3年以上は「長期貯蔵」と表示可能　など

宝焼酎「純」の長所をアピールできる

❖今後の方向性

3年で減少傾向(※)に歯止めをかける
（2010年3月期売上高 前年比100%以上へ） (※)07年3月期売上高 前年比△12%

- 品質訴求の徹底
- 「純」との接点づくり



11種類の樽貯蔵熟成酒
13%の黄金比率
それ自体でも美味しく、
そして食事との相性がよい

約2万樽・約85種類の『貯蔵熟成酒』　目指す酒質を実現する卓越したブレンド技術

主要テーマの上期活動内容と下期の方向性

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

テーマ2. 国内非酒類事業と海外事業への注力

✓ 加工業務用調味料

● 中食市場への積極的な提案活動を実施

- 営業力を強化し積極的な提案活動を試みるが、期初の売上高計画には未達
- 一方、中食市場における存在感も向上しつつあり、核となるパートナー企業からの取り扱いを獲得
- 引き続き、**ユーザーの立場、ひいては消費者の視線にたった提案活動を継続する**
  - → 取扱い商品ジャンルの拡大（酒類→食品、基礎調味料→あわせ調味料、機能性調味料）
  - → 技術支援体制の提供（調理科学研究センター：東日本クッキングラボ・西日本クッキングラボ）
  - → 営業人員のスキルアップ（社内研修を徹底）
  - → 販売ルートの拡大（食品ルートの対応）　　など実施する

売上高	07/9実績	前年比	期初計画比
調味料(億円)	99	101.8%	98.7%
うち、加工業務用	31	105.5%	97.1%
海外連結(※)(百万$)	27.1(32.6億円)	109.3%	103.0%

売上高	08/3計画	前年比	期初計画比
調味料(億円)	212	103.1%	98.8%
うち、加工業務用	65	105.8%	95.3%
海外連結(※)(百万$)	59.7(70.5億円)	109.2%	95.1%

✓ 海外事業

● 既存事業の拡大と新規事業の検討（事例後述）

テーマ3. 不断のコスト削減

- 粗留アルコールはコストアップの見込みだが、期初計画内の範囲で推移
- 重油、天然ガス、糖類など期初計画を上回るコストアップは、追加のコストダウン活動で吸収の計画

	07/9実績	計画差	期初計画
コストダウン(※)(百万円)	11	+47	△36
コストカット(※)(百万円)	298	+180	118
合計(百万円)	309	+227	82

	08/3計画	計画差	期初計画
コストダウン(※)(百万円)	560	+318	242
コストカット(※)(百万円)	415	+249	166
合計(百万円)	975	+567	408

(※)社内管理会計ベース

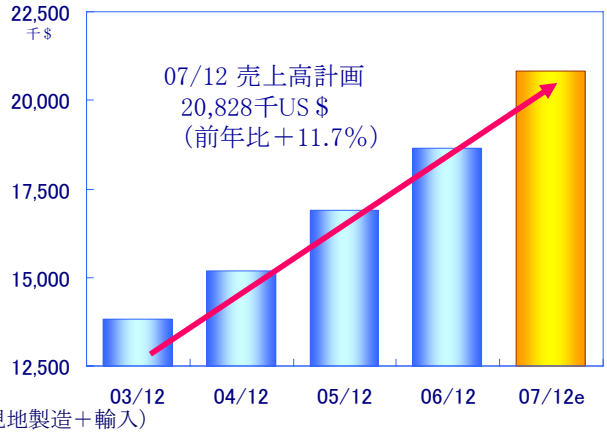
米国宝酒造 清酒製造能力の向上

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖米国宝酒造について

1982年 カリフォルニア州バークレーの沼野酒造に資本参加
翌年、米国宝酒造㈱と改称し、カリフォルニア米を使用した
現地生産の清酒「松竹梅」の販売を開始
現在では、清酒、みりん、梅酒などを製造、販売している
2006年CY 売上高 18,641千US＄（前年比＋10.4%）
営業利益 2,275千US＄（前年比△1.3%）

・米国宝酒造 売上高推移



❖清酒の拡売

【米国清酒市場の趨勢】

市場規模【推定】15,200KL（2006年CY:現地製造＋輸入）
年8～10%の水準で伸びている
※日本：約710,000KL（2006年CY：課税移出数量）

【米国宝酒造の製造能力の増強】

約8億円程度をかけて製造能力増強の設備投資を行う
2007年12月期で製造能力を1.2倍、
2012年3月期には1.5倍へ増強の予定

・米国宝酒造 Takara Sake USA Inc.

【販路の拡大】

米国内市場の拡売とともに、欧州市場への拡売を試みる
2007年6月に、パリに駐在員事務所を設立（2名駐在）

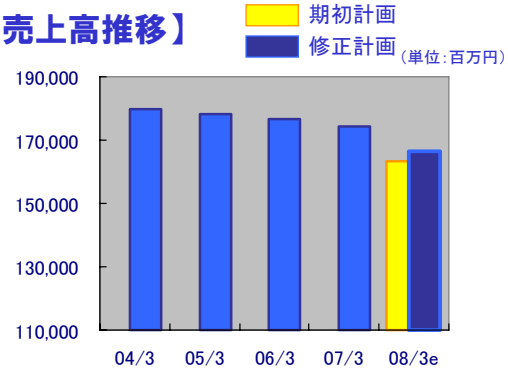
宝酒造グループ_P/L概要（08年3月期 通期業績予想）

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

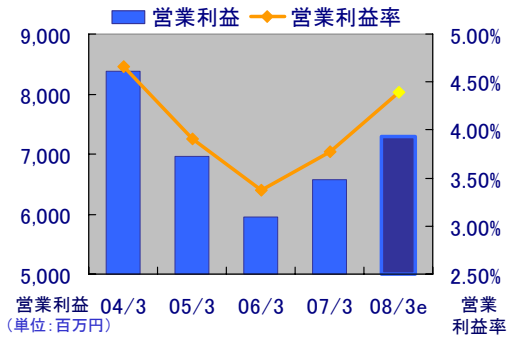
❖要約損益計算書

（単位：百万円）	08/3 計画	前年比 増減	前年比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	166,400	△7,743	△4.4	3,000	1.8
焼酎	73,757	△4,280	△5.5	1,247	1.7
清酒	23,841	△339	△1.4	△653	△2.7
ソフトアルコール飲料	19,362	30	0.2	2,650	15.9
その他酒類	11,351	639	6.0	△168	△1.5
本みりん	16,172	109	0.7	△151	△0.9
その他調味料	5,602	471	9.2	△184	△3.2
飲料	19	△7,235	△99.7	0	2.5
原料用アルコール等	4,941	△834	△14.5	△284	△5.5
その他	11,350	3,694	48.3	550	5.1
売上原価	104,000	△5,200	△4.8	1,600	1.6
売上総利益	62,400	△2,543	△3.9	1,400	2.3
販管費	55,100	△3,275	△5.6	1,300	2.4
運送費、保管料	6,106	△888	△12.7	206	3.5
広告宣伝費	3,813	289	8.2	113	3.1
販売促進費等	28,248	△2,891	△9.3	1,048	3.9
研究開発費	400	42	11.8	0	0.0
商標使用料	1,467	△122	△7.7	67	4.8
管理費、その他	14,966	195	1.3	△234	△1.5
営業利益	7,300	731	11.1	100	1.4

【売上高推移】



【営業利益・売上高営業利益率推移】

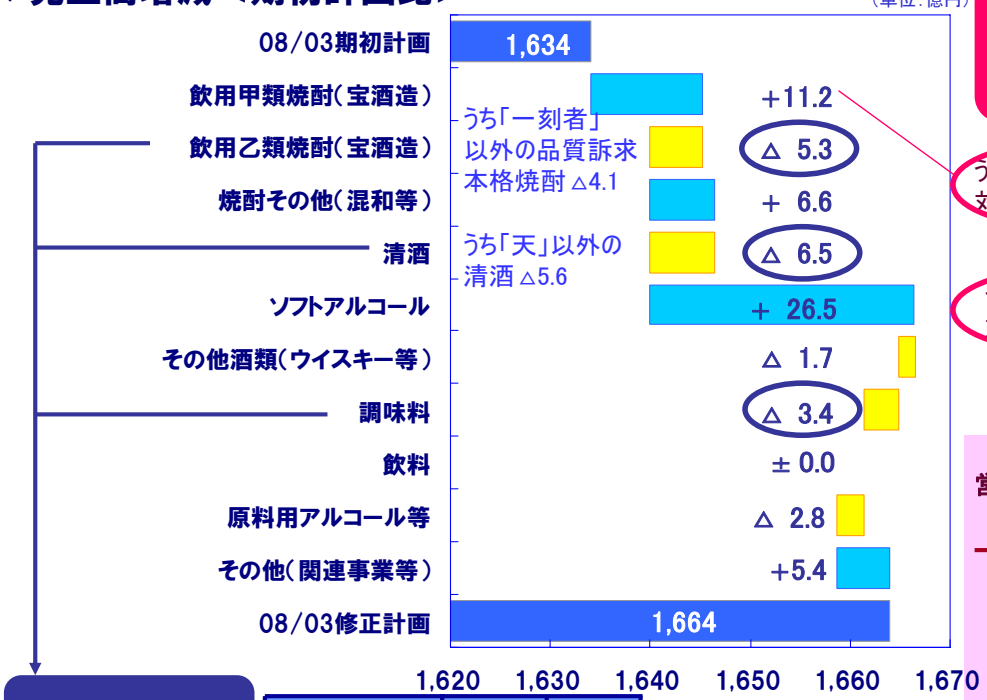


08/03計画	前年差	期初計画差
4．39%	＋0.62p	△0.02p

売上高の増減・営業利益への影響（通期業績予想）

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

❖売上高増減＜期初計画比＞



納入価格の見直し提案の対象商品売上高
期初計画比 ＋31.5 億円
前年比 △49 億円

うち納価見直し対象商品 ＋11.4

うち納価見直し対象商品 ＋20.1

主な収益悪化要因（期初計画比）

ABC別限界利益(※)前年比	08/3計画	期初計画差
(A)＋(B)	97.5%	△2.68p
(C)	100.9%	0.59p
合計（国内酒類・調味料）	99.2%	△1.09p

営業利益に対する影響（億円）	期初計画比
合計	＋1.0
納価見直し対象商品の売上増加効果	＋4.5
コストダウン	＋3.2
コストカット	＋2.5
宣伝費増加	△1.1
その他商品構成の変化など	△8.1

（※）社内管理会計ベース

3. 宝ヘルスケア概況

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

● 売上高、利益ともに計画を大きく下回るが、効果が一部現れてきた広告宣伝を継続することで、来期以降の売上拡大につなげていく

顧客の獲得を進める

○上期実績

ヘルスケア事業（単位：百万円）	07/9 実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	440	△145	△24.9
売上総利益	158	△92	△36.8
販管費	390	18	4.9
営業利益	△232	△10	—

- フコイダン：市況の低迷もあり苦戦
  一方で、有効な宣伝手法（媒体、表現等）を確認
- 明日葉：テレビCMや折込チラシなどにより、新規顧客獲得数が増加。また、平面媒体の試験的な広告出稿の継続により、効果的な表現方法を確認するなど、効率的な広告手法を習得

○下期の方向性

- 上期の成果を踏まえた上で、フコイダンと明日葉に宣伝費を集中投下
  （追加経費1億円投下）
- 来期以降につながる新規戦略に着手
  （新規販路、新規商材、配送システム強化等）

ヘルスケア事業（単位：百万円）	08/3 計画	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	1,007	△549	△35.3
売上総利益	363	△288	△44.2
販管費	865	77	9.9
営業利益	△502	△365	—

うち、追加で1億円投下

4. 宝ホールディングス連結

- 2008年3月期 通期業績予想

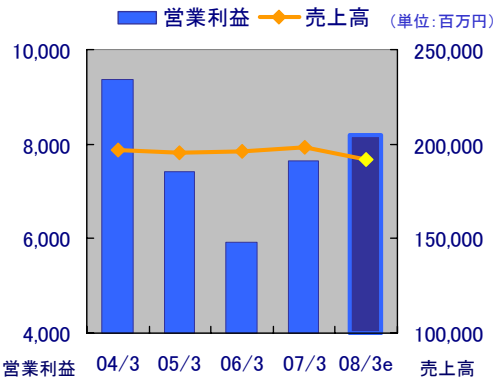
宝HLD連結_P/L概要（08年3月期 通期業績予想）

宝HLD
宝酒造　宝ヘルスケア　タカラバイオ

❖損益計算書

（単位：百万円）	08/03 計画	前年比 増減	前年比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	191,700	△6,835	△3.4	1,700	0.9
宝酒造G	166,400	△7,743	△4.4	3,000	1.8
タカラバイオG	20,300	△682	△3.3	△700	△3.3
その他	5,000	1,590	46.6	△600	△10.7
売上原価	117,200	△5,125	△4.2	1,400	1.2
売上総利益	74,500	△1,710	△2.2	300	0.4
販管費	66,300	△2,250	△3.3	300	0.5
営業利益	8,200	539	7.0	0	0.0
宝酒造G	7,300	731	11.1	100	1.4
タカラバイオG	200	415	—	260	—
その他	700	△607	△46.5	△360	△34.0
営業外収益	1,600	413	34.8	700	77.8
営業外費用	1,200	199	19.9	100	9.1
経常利益	8,600	753	9.6	600	7.5
特別利益	1,100	△522	△32.2	800	266.7
特別損失	1,800	△7	△0.4	1,600	800.0
当期純利益	4,300	91	2.2	300	7.5

【営業利益・売上高推移】



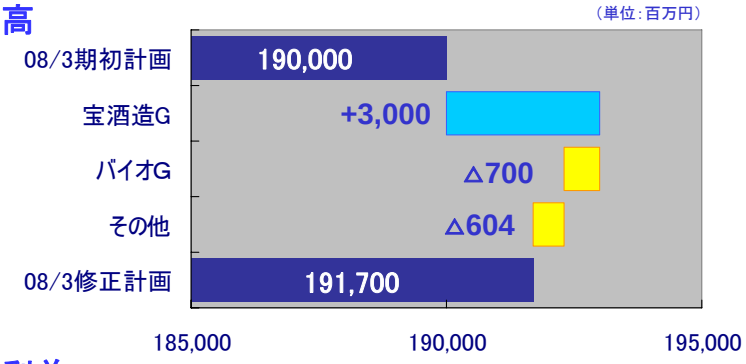
グループ別損益概要（08年3月期 通期業績予想）

宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ

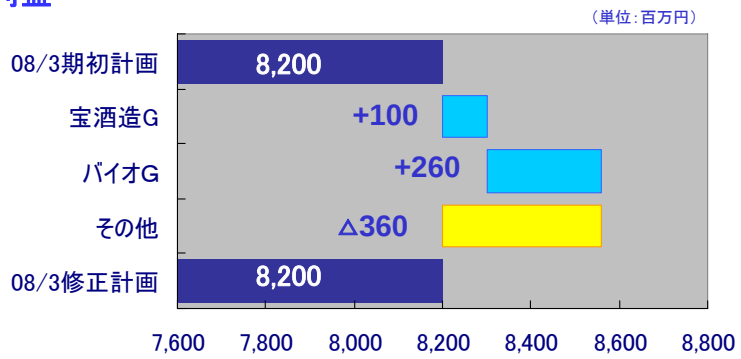
❖売上高・営業利益増減分析

【期初計画比】

◆売上高

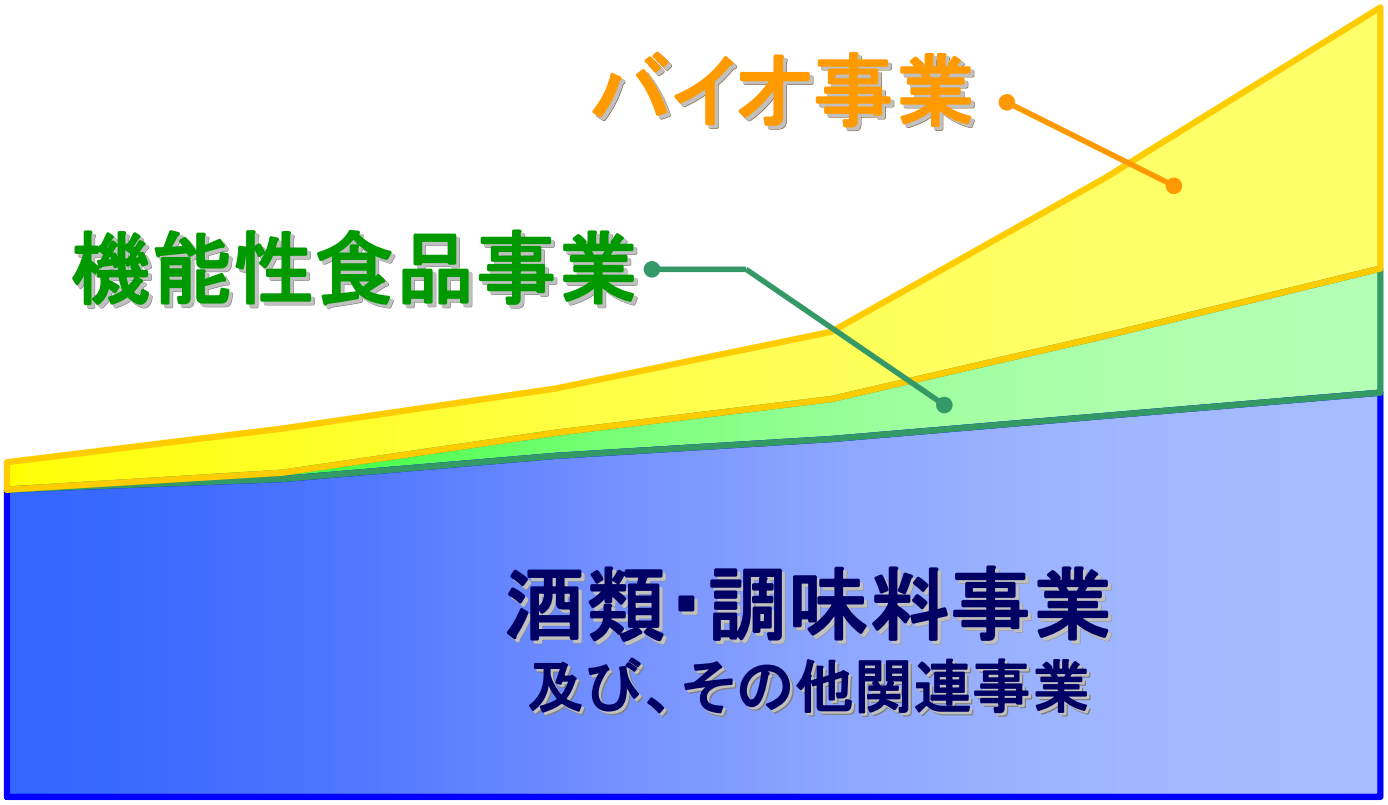


◆営業利益



企業価値の向上に向けて

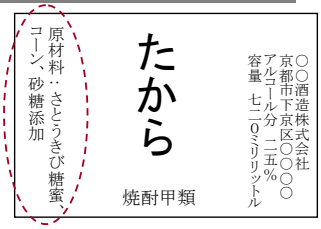
宝HLD
宝酒造 宝ヘルスケア タカラバイオ



（参考資料）

（参考）甲類焼酎表示自主基準 概要

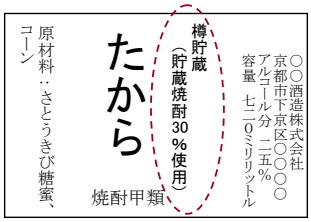
原材料の表示



“もろみの原材料”を使用割合の多い順に表示することと規定

- 次の区分ごとに表示する。
  - ①もろみの原材料
  - ②蒸留後に加えた砂糖
  - ③添加物（着色料、酸味料など）
- もろみの原材料は使用割合の多い順に表示する。
- 糖蜜については「さとうきび糖蜜」「てん菜糖蜜」等の表示ができる。
- 蒸留後に加えた砂糖は「砂糖添加」と表示する。

貯蔵容器の表示



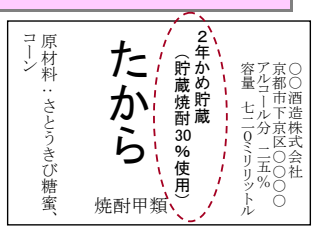
“貯蔵容器”と“使用比率”を併記して表示

- 貯蔵に使用した容器名を併記する。
- 木製容器以外の容器（かめ、タンク等）については、1年以上貯蔵した場合に、その旨を表示できる。
- 原則として、貯蔵酒の使用割合を併記する。ただし、50%以上であれば使用割合の表示を省略できる

<u>※「原酒」の表示は不可</u>

甲類焼酎は蒸留後に必ず加水するので「原酒」の表記は適切ではないため

貯蔵年数の表示



“貯蔵年数”と“貯蔵容器”を併記して表示

- 1年以上貯蔵したものは貯蔵年数を表示できる。
- 3年以上貯蔵したものは「長期貯蔵」と表示できる。
- 貯蔵に使用した容器名を併記する。ただし、3年以上貯蔵したものについては容器名の表示を省略できる。（「長期貯蔵」の場合も同様。）
- 原則として、貯蔵酒の使用割合を併記する。ただし、50%以上であれば使用割合の表示を省略できる。

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社
IR室
E-mail　ir@takara.co.jp